

会 議 録

1 会議名

令和6年度第9回名立区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

1 自主的な審議事項（公開）

（1）自主的な審議テーマの検討について

2 その他事項（公開）

（1）今年度中に実施する取組について

3 開催日時

令和7年1月28日（火）午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

名立区総合事務所 第2会議室

5 傍聴人の数

0名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：池垣委員、石井委員、岡崎委員、高宮委員、中野委員、新田委員、二宮委員、畑委員、原田委員、細谷委員、矢沢委員、吉沢委員
- ・ 事 務 局：桐木所長、沢田次長（総務・地域振興グループ長兼務）、塚田市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、木村地域振興班長
- ・ 農村振興課：志賀課長、佐藤副課長

8 発言の内容

【木村班長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告する。
- ・ 原田会長に挨拶と議長を依頼する。

【原田会長】

- ・挨拶
- ・桐木所長に挨拶を求める。

【桐木所長】

- ・挨拶

【原田会長】

- ・事務局に資料の確認と会議録の確認者の発表を求める。

【木村班長】

- ・配布した資料の確認
- ・会議録の確認者：岡崎委員、中野委員
- ・本日の次第にはないが、冒頭に、ろばた館の来年度の運用について、農村振興課の職員から現時点で説明可能な範囲で説明させていただきたい。

【原田会長】

- ・次第2、自主的な審議事項に入る前に、農村振興課からろばた館の来年度以降の運用について、説明していただくこととする。

【農村振興課 志賀課長】

- ・日頃よりろばた館の管理運営にご理解とご協力を賜っていることと共に、ろばた館の利活用について、平成29年度より地域協議会での自主的な審議事項として検討を重ねていただいていることに感謝申し上げます。
- ・また、1月19日にろばた館で開催した「新春餅つきと里神楽」のイベントでは、大勢の方からお越しいただき、とても賑わった状況を地域の皆さんと共に楽しむことができた。来月にもろばた館でそば打ち体験教室を企画しているので、そちらも地域の皆さんから盛り上げていただけると有難いと思っている。
- ・さて、ろばた館については地域の生活環境の改善及び活性化を図り、市民の福祉の向上に資するための地域活性化施設として、平成7年度に設置され、この間、名立区の皆さんに愛され、地域外の方にも利用されてきた。
- ・しかし、設置から30年が経過する中で、設備の老朽化状況や温浴機能の集約などを総合的に勘案し、これまで説明してきたとおり、令和7年4月以降は温浴と食堂の機能を休止することとしている。

- ・ 4月1日以降の管理運営方法については、資料N o. 1－2にもあるように、令和6年3月に地域協議会からご意見としていただいた「魅力ある名立区を創造する「ろばた館」の利活用案」を踏まえ、市役所内部で検討を進めている。
- ・ 貸館施設として活用するだけでなく、地域の賑わいを創出するための地域活性化施設として、そばまつりをはじめとした食のイベント等で利活用しやすいように改修を考えているところである。
- ・ 地域協議会からの提案にあるように、4つの価値を高めるような取組ができる改修を考えている。
- ・ これは新年度予算に関する内容であり、市議会3月定例会に係る予算を提出する準備をしている段階であるため、本日は詳細をお伝えすることはできないが、ご理解いただきたい。来月の地域協議会では詳細な説明ができると考えているので、次回の地域協議会でもう一度説明させていただきたい。

【原田会長】

- ・ 説明があったとおり、議会前ということで、詳細の説明はまだできないということだが、現時点で何か質問があれば発言してほしい。

【各委員】

- ・ 質問なし

【原田会長】

- ・ 現時点で質問はないようなので、この件については以上とする。

－農村振興課 退席－

【原田会長】

- ・ 今ほど、農村振興課から説明があったとおり、地域協議会から提出した意見を踏まえて検討していただいているとのことなので、次回の説明に期待したい。
- ・ では、次第2、自主的な審議の（1）自主的な審議テーマの検討に入る。
- ・ 前回の地域協議会では、自主的な審議テーマを2つに絞った。しかし、前回は欠席の委員が多く、具体的な絞り込みまでできていない。今回は全委員が出席であるため、引き続きフリートーク形式で、2つのテーマをさらに絞り込み、具体化してい

きたいと思う。

- ・まずは資料について、事務局に説明を求める。

【木村班長】

- ・資料N o. 1 及び資料N o. 1 - 2 に基づき説明

【原田会長】

- ・前回の会議では、「名立の魅力発信」と「持続可能な集落・地区の促進」という2つのテーマに絞り込んだが、自主的審議事項のテーマとしてはまだ大きすぎると思う。
- ・ここからどうやって絞り込んでいくのかが課題である。皆さんの方で、具体的にこういう形でというアイディアがあれば教えてほしいし、また自分の関心のある部分やここを重点的に協議したいといった内容でもよいので、フリートークで発言してほしい。

【中野委員】

- ・移住の話になるが、名立区に移住された方を地域協議会に招いて、お話を伺うのはどうか。
- ・移住に関しては、長く名立区に住んでいる私たちでは分からない部分が多く、実際の体験談をお聞きするのが良いと思う。

【原田会長】

- ・中野委員が言われるように、移住された方から、名立区を選んだ理由や、名立区の魅力をお聞きするというのも良いと思う。

【二宮副会長】

- ・私の年代で、若い世代に魅力を上手く伝えられるか自信はないが、先週のろばた館のイベントの際に里神楽を奉納させていただいたが、私たちもびっくりするくらい、大勢の人が集まっていた。もちろん、里神楽だけではなく、餅つきが目当ての方もいたと思うが、あれだけのお客さんに集まってもらえて嬉しかった。
- ・今、名立里神楽保存会ではイベントを企画している。若い世代はなかなか地域の祭りに参加しない。里神楽では、伝統としてお客さんとの掛け合いがあるが、若い世代はそういった伝統を知らない人が多いと感じている。
- ・名立区内でも、色々と工夫して、若い世代が神社の祭りに参加するようになったという話も聞いているが、まだまだ若い世代が里神楽のような伝統に触れる機会が少

ない。

- ・里神楽はその地域によって違いがあり面白い。里神楽のような名立区の伝統や文化を通して魅力を発信できればと考えている。
- ・また、個人的に歴史めぐりが好きなので、名立区内で開催されている史跡巡りに参加した。私が住む町内にも史跡があり、それを守り語り継いでいくための組織を作って活動を始めたところだ。
- ・そういった名立区の歴史について、発信することも面白いと思うが、果たして若い世代が歴史や文化に食いついてくれるかと考えると難しいかもしれない。
- ・里神楽や歴史について、祭りや講演会を企画しようと思っているが、私たちの会だけでは情報発信が難しい。このような時に、名立区のイベントをまとめたサイトがあり、そこで様々なイベントを発信できるようになると効果的ではないかと思っている。
- ・また、若い世代が活躍している「名立海と山の学校実行委員会」などとコラボしてイベントを実施することで、若い世代の目に留まるのではないかと考えてもいる。
- ・このように、小さな組織が単体でイベントを行うのではなく、区内の様々な団体が繋がって、協力してイベントを行ったり情報を発信することができる仕組みが作れば成果があるかもしれない。

【新田委員】

- ・先週のろばた館のイベントには私も参加した。その際の里神楽では、小さなお子さんが舞うということで、保育園のお友だちやその家族も多く来館していた。普段なら、子どもたちは里神楽に興味を示さないのだが、同年代の子が頑張っている姿にはとても興味を示し、楽しそうに参加していた。
- ・やっていることはいつもと同じ里神楽でも、内容を工夫することでお客さんの層はがらっと変わると感じた。

【原田会長】

- ・同じイベントでも、企画側にお子さんが加わることで、来場者の層が変わるし、子どもたちも名立の歴史や文化、イベントに興味を持つきっかけになれば良いことだと思う。

【岡崎委員】

- ・私も名立の歴史めぐりはとても良い企画だと感じている。何かきっかけがあれば、私たちがコラボしてみたい。ただ、年間スケジュールも決まっているので、調整が必要になる。
- ・例えば、若い世代を対象とした「まち案内ガイド育成講座」のようなイベントを開催して、そこで育った若い人たちが、今度はガイド役になるというような仕組みができれば、同じ歴史めぐりでも若い世代や子どもたちは興味を持つのではないかと考えている。
- ・もちろん、年配の方も楽しんで参加できるようにすることも大切だと思うし、最初からハードルを高くしてしまうと、なかなか成功しないと思うので、まずはハードルを低くして、「今回は不動地区ツアー」、「次は小泊地区ツアー」といったように、小さな規模で定期的を開催していけばよいと考えている。
- ・ただ、最初の課題は「それを誰が主催するの？」、「ガイド役は誰ができるの？」といったところだ。
- ・例えば、まずは地域協議会委員の若手が、石井委員のような方から名立区の歴史を学び、少しずつ広げていくといった方法もあると思う。このように、まずはきっかけをつくって、どんどん広げていければ成功するのではないかなと思う。

【原田会長】

- ・昔話になるが、名立町の時代にオリエンテーリングというものをやっていたことがあった。
- ・保育園の保護者などに声をかけて、地区を指定し、その地区内を散策していただくといったもので、その途中に色々な問題が用意されていた。例えば、「この橋は何メートルでしょう？」、「この建物は何年にできたでしょう？」といった問題だ。参加者はその問題に解答しながら地区をぐるっと回っていくというオリエンテーリングなのだが、これは当時の名立町の公民館が主催していたと思う。
- ・このようなイベントを何年か継続して行ったことがあって、大勢の参加者が集まったと記憶している。
- ・このように、若い世代が地域内を散歩しながら、その地域の歴史や文化を知っていくという取組があったことを思い出した。この時のようにゲーム感覚のイベントにすることでハードルが下がり、若い世代や親子が参加しやすくなるかもしれないと

思った。

- ・同じ名立区の住民でも、海側と山側では歴史や文化が違うことも多くあり、お互いにまだまだ知らないことが多くあると思う。
- ・11月にNPOまちづくり未来ネット・名立の皆さんが中心となって行った「なだち未来ひろば」では、細谷委員も中心となって取り組んでいたと思うが、その時の話をぜひ聞かせてほしい。

【細谷委員】

- ・私も企画の段階から参加させていただいた。来場者数がどうこうという話よりも、新しい取組のスタートとしては良い結果になったと感じている。
- ・名立区内の様々な企業の皆さんからもご協力をいただくことができ、今回の企画を通して幅広い分野の方との繋がりができたことが一番良かった点だと思う。
- ・逆に残念だった点としては、もっとイベントのPRを徹底すれば、来場者が増え、より多くの方から名立区の取組を知ってもらえたのではないかと考えている。

【原田会長】

- ・私も今回のイベントは、今後のまちづくりにとって、良いきっかけになったと思っている。新しい視点として、様々な企業の方がまちづくりに参画することができたと思う。
- ・以前は、名立まつりがその役割を担っていた部分もあったが、今はそうではなくなり、企業の皆さんとの繋がりがなかったところに、今回のイベントを通して新たな繋がりが生まれたと思う。
- ・今までの意見をまとめると、移住者の方からお話を聞くことや、歴史や文化を若い世代に魅力的な方法で伝えること、新しいイベントを通して魅力発掘をすることがあげられると思う。
- ・今後の流れとして、テーマが多いようであれば、分科会形式でそれぞれがテーマを詰めていくという方法もあると思う。
- ・また、こういうところを視点として、名立区内を視察することや、上越市内ですでに取組を行っている場所を視察するという方法もあると思う。
- ・あとは、移住者を積極的に受け入れている地域があると思うので、そういった所を視察することも考えられる。

【畑委員】

- ・私も先週、ろばた館のイベントに参加したが、名立区にはこんなに多くの若者がいるのかとびっくりした。また、小泊地区の神社の行事を見に行った時も、若い世代が中心になって盛り上げている姿を見た。もちろん、年配の方も多くいたが、その中間の層というか、働き盛りの世代が少なく感じた。
- ・地域協議会として、働き盛りの世代の意見を聞くことも良いのではないかと思った。

【原田会長】

- ・細谷委員が小泊地区に住んでいて、近所の同年代を巻き込んで様々な地域行事に参加している。私の住んでいる隣の地区に、細谷委員と同世代の方が住んでおり、もちろん顔は知っているが、町内の行事などで顔を合わせることは滅多にない。町内会の集まりがあれば、親世代が出席することが当たり前になっていて、町内の若い世代と接する機会があまりない。
- ・小泊の若い世代はどのような過程で地域の行事に参加するようになったのか知りたい。

【細谷委員】

- ・小泊町内に関しては、若い世代で新しいことを始めた訳ではなく、今までも行っていたものに、若い世代が参加するようになったのがきっかけだと思う。たまたま仲の良い人が集まっただけと言われればそれまでだが、自分たちが楽しみたいという思いから、有志を一人ずつ増やしていった結果として、子どもたちや子育て世代が楽しめる行事になったと思う。

【原田会長】

- ・フリートークの中で、少しずつ具体的な方向性が見えてきたと思うが、他の皆さんはどうか。

【木村班長】

- ・資料No. 1-1の下段にあるように、魅力発信というと、インターネットやSNSが主流であり、インスタグラムを使って個人的に名立区の魅力を発信されている方もいるし、ユーチューブで名立区を紹介している方もいるが、それぞれがバラバラに発信しているため、細谷委員も言われたように、周知不足になることもある。
- ・そこを一元化して、名立区の魅力や情報を発信できたら面白いと思う。

【原田会長】

- ・確かに、様々なSNSで「名立」と検索すると、個人的にいろんな情報をアップしている人がいる。しかし、統一感がないため、そこから正確な情報を読み取ることが難しい場合もあると感じている。
- ・例えば、1つの基になるオフィシャルのページがあって、そこから名立区内の企業や個人が発信しているサイトにアクセスできるという仕組みも良いかもしれない。
- ・名立に観光協会があった頃は、観光協会のホームページを窓口にして、区内の企業のサイトに繋がったり、区内の様々なイベントの告知も行っていた。また、名立町役場のホームページを活用したこともあった。
- ・観光協会に代わって、こういったことを担っていただける組織があれば一番良いと思う。
- ・魅力発信というテーマの中で、ろばた館の新たな活用だったり、うみてらす名立と連携した取組だったり、団体同士がコラボして新たな活動を行うなど、色々な方法が考えられるが、地域協議会はその繋ぎ役となって、様々な取組を具体化していければ良いと思う。

【池垣委員】

- ・福祉の観点から魅力発信を考えた時に、高齢になっても元気に暮らしていくためには、外出の機会を増やすことが大切だと感じている。
- ・若い世代はもちろんだが、高齢になっても区内で外出したくなるようなイベントがあれば、それも魅力になると思う。
- ・日頃、1人暮らしや高齢者のみで暮らしている方にとって、子どもと関わる生きていくうえでの原動力になる。何らかのイベントを通して、高齢者と子どもたちが関わる機会をつくれれば良いと考えている。

【原田会長】

- ・池垣委員が言うように、区内で世代交流ができる機会があるというのも名立の魅力に繋がると思う。

【二宮副会長】

- ・前にも地域協議会の場で話したことがあるが、世代間交流という観点で、「こども食堂」というか「誰でも食堂」が実現できれば、子どもから高齢者までが集まれるし、

そこで世代間交流が図れるのではないかと思います。

- ・上越市では、子どもの居場所づくりに取り組んでいるようで、上越市子ども計画案の中でも見たことがある。
- ・ろばた館で開催できれば一番良いと思うが、スタッフやボランティアを集めることが難しいので、まずは現在行われている高齢者の「まちなかサロン」を土日に開催し、子どもたちも参加できるような形に変えるという方法であれば、食生活改善推進員やボランティアにも協力していただけるのではないかと考えている。

【原田会長】

- ・「こども食堂」と聞くと、子どもの貧困対策というイメージがあるが、そうではなくて、地域交流や世代間交流を目的とした「地域食堂」、「誰でも食堂」のようなイメージになると思う。

【二宮副会長】

- ・以前、商工会の方とも話したが、例えばろばた館を活用するのであれば、子ども食堂と同じ時間にネイルサロンやスイーツの販売なども実施し、外には雪で遊べるスペースを作ったりして、子どもだけでなく様々な世代がろばた館で楽しめるようなイベントにすることが理想だと思っている。
- ・ただ、このような企画を考えた時に、なかなか実行部隊となってくれる団体がいないことが課題である。

【原田会長】

- ・二宮副会長が言われたような規模になると、1つの団体で全てを行うことは難しいと思う。例えば、様々な団体に集まっていただき意見交換をする中で、「私の団体はこの部分ならできる」といった話がまとまり、多くの団体の善意で一つのイベントを実施するという方法なら実現できるかもしれない。
- ・そういった形をつくるために、地域協議会が主導して様々な団体との調整を行うことが大事だと思う。
- ・今は二宮副会長が個人的に動いているため、各団体の説得など、難しい部分が多いと思う。その部分を地域協議会が担うことが、実現への一番の近道かもしれない。
- ・他に意見がないようなので、これまでに皆さんから出た意見を事務局と一緒に取りまとめ、もう少し具体的な方向性を次回の地域協議会で示したいと思う。

- ・次に次第3、その他事項（1）今年度中に実施する取組について、事務局に説明を求める。

【木村班長】

- ・資料N o. 2に基づき説明

【原田会長】

- ・取組②の地域課題等を共有する視察と勉強会について、今ほど事務局から移住促進や再エネ等、様々な取組にチャレンジする不動地区の視察を行ってはどうかという提案があったが、この件についてご意見のある方は発言してほしい。

【二宮副会長】

- ・提案のあった視察のうち、森林資源調査の報告会と再エネ研修会はどこで開催されるのか。

【沢田次長】

- ・この2つの事業に関しては、市の地域独自の予算事業を活用しているもので、会場については、今後調整する予定である。
- ・冬期間なので現地を案内することはできないが、報告会で状況や成果をお伝えできればと思っている。

【原田会長】

- ・不動のブナ林をドローンなどで撮影した映像はあるか。

【沢田次長】

- ・今から7年ほど前にセスナで撮影したことはある。また、来年度にドローンを飛ばす計画があると聞いている。

【原田会長】

- ・そういった貴重な映像も見せていただけると嬉しい。やはり、一面がブナ林という映像はインパクトがあるし、多くの皆さんから是非見て関心を持っていただきたいと思っている。

【沢田次長】

- ・あれだけ広大なブナ林を所有し、1つの森林組合だけで管理し、それを活用しているところは、全国でも珍しいと言われている。

【原田会長】

- ・では、地域協議会で今年度中に実施する取組については、事務局案のとおり進めることとする。
- ・その他事項（１）、今年度中に実施する取組については以上とする。このほか、皆さんから何かあれば発言してほしい。

【岡崎委員】

- ・私が所属している名立海と山の学校実行委員会は、「人と仕事とまちづくり」を目指した団体で、地域の魅力をみんなで発信していこう、地域の未来を共に創造しながら、良いまちづくりをしていこうという思いがあって立ち上げた団体である。
- ・２０２５年は、「魅力発信」をテーマとして、イベントを通して、区内の方はもちろん、県外の方へも魅力発信をしていく予定である。
- ・ＳＮＳで魅力を伝えることもできるが、そうではなく、実際に名立を訪れていただき、名立ならではのイベントを通して、魅力を伝えたいと思っている。
- ・その結果、来場者がＳＮＳ等でイベントを発信することで、もっともっと名立区の魅力が伝わっていくのではないかと考えている。
- ・そんな想いで２０２５年の年間スケジュールを作成したので、委員の皆さんにもお配りさせていただいたので、目を通していただけると嬉しい。
- ・季節ごとに名立の魅力を取り込んだイベントを企画している。まだ計画段階なので、内容が変わることもあると思うが、年間を通して名立の魅力を発信していきたいと思っている。
- ・もしかしたら委員の皆さんにもお力添えをお願いするかもしれないが、その時はぜひご協力いただけると嬉しい。

【二宮副会長】

- ・次回の会議にも農村振興課の方が来て下さるとのことだが、ろばた館で開催しているイベントについて、来年度も開催予定があるのかを知りたい。
- ・先週のろばた館でのイベントの際に、地域の方から「今年で最後だもんね」という声を聞いたので、来年度以降のイベントがどうなるのか教えてほしいと思っている。

【木村班長】

- ・例えば、そばまつりについては市主催ではなく、農業振興協議会が行っているイベントであり、来年度も継続したいと聞いている。

- ・別件になるが、以前、地域協議会で名立たちばな保育園長と意見交換をした際に、保育園の内覧会があると良いといった意見が出た。それを受けて保育園では、地域の方に向けた内覧会を2月15日(土)の午前中に設定してくださった。
- ・ぜひ、興味のある方は参加してほしい。

【原田会長】

- ・次に次回の会議日程について、事務局に意見を求める。

【木村班長】

- ・先ほども話したように、次回の会議では、農村振興課から来年度以降のろばた館の運営について説明がある予定である。そうすると、3月議会との関係もあり、2月18日以降に開催したいと思っている。具体的な日にちについては、原田会長と相談し、決まり次第皆さんにお伝えする。
- ・ただ、来月はこちらの会場が確定申告の会場となり使用できないため、名立地区公民館での開催となる見込みである。

(一同了解)

【二宮副会長】

- ・閉会の挨拶

【原田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

名立区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL 025-537-2121 (内線 5504)

E-mail: nadachi-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。